

～33号—2015年10月1日発行～

*10代、20代、30代以上の不登校・ひきこもりの方の社会参加を考えるNPO法人です。

ポラリス通信

～不登校・ひきこもりの対応ニュース～

NPO法人不登校情報センター
訪問サポート部門トカネット・代表藤原宏美

下記の予約先

[E-mail/tokanet1998-lucky-chance@docomo.ne.jp](mailto:tokanet1998-lucky-chance@docomo.ne.jp) (藤原) / 090-4953-6033(藤原)

不登校・ひきこもりのサポート個別相談

(予約制・ご相談料金3000円です。)

訪問サポート(メンタルフレンド・同行援助) 説明日

◆10月18日(日) 13時～

(無料/保護者様対象で、お一人でも行います。/お子様の年齢10～40代)

もう10月ですね。1年があっというまに感じますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。夏休み明けの9月、やはり、行きしぶりや、学校に行けない子どものご相談が増えました。また、先月は10代だけでなく、20代、30代と年代に関係なくご相談がとても多かったです。夏が終わると1年の後半を感じ始め、なんとなく焦り出す時期なのかもしれません。

全体的に、今までは、「見守る」という感じが多かったです。最近、メンタルフレンド、同行援助、訪問カウンセラーなどを積極的に望まれる方が増えてきたように思います。なかなか人と会いたがらない子どもを、どうやって他者につなげるかを親御様と一緒に考えました。

30代以上の親の会では、ひきこもり体験者の話を聞きながら、親子の在り方や、どうやったら、一歩社会参加へつなげることができるのかを話し合いました。10代20代の親の会は今回、不登校・ひきこもり体験者たちも含めて20人近くの参加になりました。かなり深く話し合う事ができて、終了後に、参加してよかったです、とご連絡を下さった方もおられました。簡単に答えは見つからないかもしれないけれど、まずは、たまった気持ちをはき出して、この問題に通じる色々な立場の人たちと話し合う事で、何かひとつでも得るものがあるのではと思いました。

ご家族からの具体的な質問

【質問11】

来てもらっても「会えない」場合は、どうすればいいのですか。

中2の息子ですが、中1の2学期から学校に行かなくなりました。理由は何もありません。家の中ではとても元気で、外にも出ます。友達とは休み始めた頃は連絡をとっていたようですが、いまではまったく断ち切ってしまいました。

ただ大学生の姉とはとても仲がよくて信頼しているようです。いまの生活がとても楽なようで、このままでは何も変わらないと思うと不安になります。大学生のメンタルフレンドにきてもらいたいと思うのですが、息子はおそらく会わないと思うと思います。どうしたらよいでしょうか。

【お答え】

不登校中の子どもは誰にも会いたくないという子どもがほとんどです。メンタルフレンドが来るといえば、嫌がる子どもが多いと思います。親の代わりに学校に行くように説教や説得をしに来る人、いまの自分の生活を変えさせに来る人という警戒心になります。また、そんなものは必要ないという自尊心もあると思います。

しかし、他人とかかわることをまったく止めてしまえば、ますます外の世界へ出て行く接点をなくしてしまいます。「あなたはいままでがんばってきたから、いまは家でゆっくり休んでもいいのだよ。だけど家族以外の誰とも話さないのだけはどうしてもよくない。だからメンタルフレンドのお兄さんに来てもらうよ。でも、知らない人に会いたくないよね。その気持ちはわかるよ。だからあいさつだけでもがんばってみてほしい。まず5分だけでも会う努力をしてみしてほしい、それでも無理なときはお母さんが会うから」というように、逃げ道をつくりながら、相手が同意しなくてもまずは親が、本人にメンタルフレンドを入れる意味をきちんと伝えることが大事です。

そうすれば、たとえ怒ったり、あばれたりしても、お母さんが伝えた意味だけは頭にのこります。メンタルフレンドが訪問して、会えないときには短い手紙を書いておいていきます。相手が会いたくないときは、会いたいとは書かずに、「今日は天気がいいね、昨日は巨人が負けて悔しかったよ。また来るね」というように日常なことだけを短く書きます。これを繰り返していくうちに、メンタルフレンドに警戒心をもたなくなります。そして、ちょっと会って見ようかなというときを待ちます。

大切なことは、親があせらず、揺るがず、毅然としていることだと思います。大学生のお姉さんと仲がいいということですので、お姉さんの友達を連れてきたという形や、お母さんがパソコンを教えてもらう人など、他の理由にして結び付けようとするやり方のほうが楽なように思いますが、初めはうまくことがあります、いずれ自分には関係ないということで続かなくなることが多いです。

やはり、こうして親が子どもにきちんと向き合う姿勢を見せることからできれば、結果的にメンタルフレンドとかかわることにつながっていくことが多いです。いったんメンタルフレンドに対する警戒心がなくなれば心を開いていきます。そこから子どもは変わっていきます。

(次号に続く)

子育ては学問ではありません

松田武己(不登校情報センター)

親の会がつづき、不登校や引きこもりの子を持つ親たちと話し合う機会が重なりました。私はそういう集まりを数多く経験しています。

親の会は、家族内での共通のテーマをもつ親たちの集まりです。ここに集まっていれば子どもが学校に行くわけでもなければ、引きこもっていた子どもが外出し、働き始めるわけでもありません。では何なのか、何をしているのか？

家族内の問題を自然に、負担なく話せる場です(背負っている荷物を降ろす感じ)。互いの経験(うまくいったこともあればまずかったこともある)を交流する場です。それらを通して共感しあえる場です。心のうちに力がよみがえり目標が見えてくる場です。それらの中には何らかの規則性や法則性もありますから、系統化すれば教育学、心理学やその技法や方法論を学ぶことにもなります。それが不登校や引きこもりや親子関係の理解に役立つのです。

これらを教育学や心理学から学ぶところから始める人もいます。親の会には教育学や心理学を学ぶ学生がよく参加します。自分が不登校や引きこもりの経験をした人が多いのが特徴です。そういう出席者には大学で学ぶ理論や知識が役立ち理解を助けることはあります。けれどもそれを逆から見るのは間違っています。学生たちは学んだ理論がどういう現実から生まれたかを知る機会になるのです。

子育てに関していえば、教育学も心理学もぜんぜん学んだことのない多くの親たちがスムーズに子育てをしています。人間の成長過程の理解と子どもへの自然で強い愛情が基本にあるからだと思います。

愛情は知識や学問として教えられるものでしょうか。教えられるかもしれませんがテキストにはよらないと思います。子育ては愛情プラス経験で可能だと思います。しかし、何かうまくいかないと感じるとき(子どもの不登校や非行など)、原点に戻って親が考え直す機会になります。

人間に関係することは知識(学問)の下地に人の感情や感覚が働いています。政治とか宗教などもそうです。社会心理学はそれをカバーしようとする試みですが、それを超えるものがあります。子育ては際だってそのようなものです。

しかし、誕生した子どもが成人する割合を比べれば、人の場合は格段に高いのです。成人することと自立することは同じではないようです。両者の同一化を最前線で学びあうのが親の会かもしれません。

(1) 訪問サポート(メンタルフレンド・同行援助) 説明日

★大学生や社会人による、不登校やひきこもりの人への訪問サポート(メンタルフレンド・同行援助)を1998年から行っています。
サポーターとかかわることで、どのように学校や、就労を含めた社会参加につながっていくのかを中心に説明を行います。

*日時: 10月18日(日) 13時~。

*対象: 親ご様(お子様年齢10~40代) *参加費: 無料

★お一人でも行います。

(2) 不登校・ひきこもりの親の会 (専門家と考える会)

●何が子供におきているのか。●親が出来る事。●安心出来る人間関係を作っていくこと。●モチベーション・自己肯定感を上げていくこと。●学校復帰・バイト・友達づくりなどの社会参加につなげていくこと...など複数の専門家と一緒に考えていきます。

*日時: 10月24日(土)、13時~。

*参加費: お一人500円

*対象: 10代および20代の子供の親・体験者・学びたい人

(3) 「大人のひきこもりを考える教室」

*日時: 10月11日(日)、13時~15時。

*参加費: お一人500円。

*対象: 30代以上のひきこもりのご家族・経験者・学びたい人。

◎上記は、全て予約制です(連絡先は下記まで)。

◎場所: NPO 法人不登校情報センター(JR総武線「平井」駅南口・徒歩5分)

◎地図は、下記のホームページ(URL)をご参照ください。



●NPO 法人不登校情報センター

●訪問サポート・トカネット

【発行元】 ポラリス通信編集部

〒132-0035 東京都江戸川区平井 3-23-5-101

連絡先・予約先

TEL/03-5875-3730/090-4953-6033(藤原)

E-mail/tokenet1998-lucky-chance@docomo.ne.jp

URL/http://www.futoko.info/tokenet/